

## 島崎藤村の「破戒」と「家」にみる建築空間 近代化社会における境界の変容

正会員 ○ 国保 潤\*1  
同 渋谷佳児\*2  
同 近藤正一\*3  
同 若山 滋\*4

**【序論】**明治維新後、西洋文明の波は、日本の文化や人々の生活に多大な影響を与え、東京をはじめとする都市や建築は大きな変貌を遂げ、日本人の心象における建築空間にも大きな変化をもたらしたと思われる。しかし、奥まった地方の都市においてはどうであったのだろうか。本研究では、信州の山に囲まれた地域を舞台とした島崎藤村の二作品を取り上げ、その中に現れる建築空間について分析することによって、西洋あるいは近代という新時代の意識が、旧来の社会体制の残る地方都市の社会空間へどのように浸透していったのかを明らかにすることを目的としている。

**【研究対象及び研究方法】**『破戒』『家』(新潮文庫)を研究対象とし、以下の考察を行う。

- 1) 作品中に出現する建築空間に関する用語を建築用語として抽出し、[建物] [部屋] [部位] [家具・部材] [家具] [庭] [都市施設] [地名] [国名] [交通機関] [その他]に分類、集計して考察する。
- 2) 作品の舞台となる空間の文章量(文字数)を作者及び読者の意識時間として集計して舞台推移図を作成し、舞台の空間的な流れとその構成を考察する。
- 3) 作品中に出現する建築空間に関する表現を抽出し、作者の空間意識とその意味の構造を考察する。

**【建築用語の頻度】**抽出した建築用語より、作品全体、『破戒』、『家』の抽出頻度の高いものをそれぞれ表-1、2、3に示す。二作品を通じて「家」が圧倒的に多いが、これはこの時代の日本文学に共通して見られる傾向である。

表-1 全体の頻度の高い建築用語

| 建物  | 回数  | 機関  | 部屋 | 回数  | 部位 | 回数  | 家具・部材 | 回数 | 家具 | 回数 | 庭    | 回数 | 都市施設 | 回数 | 地名  | 回数  | 国名    | 回数 | 交通機関 | 回数 | その他 | 回数  |
|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|-------|----|----|----|------|----|------|----|-----|-----|-------|----|------|----|-----|-----|
| 学校  | 675 | 269 | 部屋 | 164 | 窓  | 110 | 椅子    | 41 | 机  | 70 | 庭    | 98 | 停車場  | 46 | 東京  | 148 | ヨーロッパ | 61 | 馬車   | 66 | 町   | 116 |
| 学校  | 174 | 112 | 階  | 116 | 壁  | 66  | 机     | 40 | 洋燈 | 47 | 垣根   | 19 | 道路   | 29 | 飯山  | 63  | 日本    | 3  | 車    | 57 | 田舎  | 55  |
| 蓮華寺 | 75  | 27  | 妙見 | 64  | 壁根 | 45  | 柱     | 27 | 洋燈 | 21 | 入口の庭 | 14 | 道路   | 24 | 名古屋 | 48  | 欧羅巴   | 1  | 駆車   | 27 | 壁   | 52  |
| 旅舎  | 65  | 27  | 廊下 | 51  | 門  | 41  | 床     | 25 | 食卓 | 19 | 裏庭   | 9  | 橋    | 18 | 向島  | 24  | ムサシ   | 1  | 船    | 21 | 屋外  | 38  |
| 旅館  | 51  | 31  | 階下 | 42  | 枝床 | 26  | 玻璃    | 16 | 火鉢 | 17 | 運動場  | 7  | 街道   | 11 | 伊東  | 22  | 朝鮮    | 11 | 馬車   | 14 | 旅館  | 26  |
| 旅館  | 46  | 15  | 廊下 | 37  | 楼梯 | 22  | 玻璃障子  | 10 | 火鉢 | 17 | 井戸   | 7  | 路地   | 9  | 伊豆  | 22  | 武蔵    | 1  | 駆車   | 12 | 町々  | 29  |
| 生家  | 40  | 20  | 壁面 | 35  | 白壁 | 19  | 格子戸   | 8  | 椅子 | 16 | 櫛    | 6  | 船橋   | 7  | 長野  | 22  | 武蔵    | 1  | 馬車   | 12 | 宿外  | 28  |
| 下宿  | 39  | 15  | 奥敷 | 27  | 人口 | 19  | 雨戸    | 8  | 枕  | 13 | 水車   | 5  | 上の渡し | 7  | 根津  | 22  | 村野    | 1  | 舟    | 10 | 牧場  | 26  |

表-2 『破戒』における頻度の高い建築用語

| 建物  | 回数 | 機関 | 部屋 | 回数 | 部位 | 回数 | 家具・部材 | 回数 | 家具 | 回数 | 庭   | 回数 | 都市施設 | 回数 | 地名 | 回数 | 国名    | 回数 | 交通機関 | 回数 | その他  | 回数 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|-----|----|------|----|----|----|-------|----|------|----|------|----|
| 家   | 93 | 48 | 部屋 | 50 | 壁  | 41 | 机     | 25 | 机  | 27 | 庭   | 22 | 停車場  | 12 | 飯山 | 63 | ヨーロッパ | 31 | 町    | 18 | 町    | 38 |
| 学校  | 89 | 48 | 廊下 | 39 | 壁  | 29 | 柱     | 16 | 洋燈 | 20 | 運動場 | 7  | 停車場  | 9  | 東京 | 23 | 日本    | 17 | 駆場   | 25 |      |    |
| 蓮華寺 | 75 | 27 | 妙見 | 24 | 垣根 | 20 | 舟     | 13 | 椅子 | 13 | 東京  | 6  | 道路   | 9  | 根津 | 23 | ヨーロッパ | 14 | 屋外   | 13 |      |    |
| 寺   | 36 | 19 | 階下 | 23 | 机  | 13 | 椅子    | 12 | 火鉢 | 10 | 扇根  | 2  | 船橋   | 9  | 伊豆 | 20 | 朝鮮    | 7  | 町    | 7  | 町はずれ | 12 |
| 下宿  | 34 | 15 | 教室 | 22 | 人口 | 12 | 玻璃    | 7  | 毛布 | 7  | 橋   | 2  | 上の渡し | 7  | 伊豆 | 19 | 日本    | 7  | 船    | 7  | 地方   | 11 |

表-3 『家』における頻度の高い建築用語

| 建物 | 回数  | 機関  | 部屋 | 回数  | 部位 | 回数 | 家具・部材 | 回数 | 家具 | 回数 | 庭    | 回数 | 都市施設 | 回数 | 地名    | 回数  | 国名    | 回数 | 交通機関 | 回数 | その他 | 回数 |
|----|-----|-----|----|-----|----|----|-------|----|----|----|------|----|------|----|-------|-----|-------|----|------|----|-----|----|
| 家  | 582 | 223 | 部屋 | 114 | 壁  | 69 | 椅子    | 29 | 机  | 43 | 庭    | 76 | 停車場  | 37 | 東京    | 121 | 日本    | 31 | 町    | 49 | 町   | 78 |
| 学校 | 85  | 64  | 二階 | 93  | 壁  | 37 | 机     | 15 | 洋燈 | 27 | 垣根   | 17 | 名古屋  | 48 | ヨーロッパ | 3   | 車     | 39 | 壁    | 50 |     |    |
| 旅舎 | 59  | 26  | 廊下 | 40  | 机  | 29 | 舟     | 12 | 被服 | 21 | 入口の庭 | 14 | 道路   | 15 | 東京    | 24  | 欧洲    | 1  | 駆車   | 27 | 田舎  | 48 |
| 旅館 | 39  | 4   | 階下 | 37  | 壁根 | 28 | 柱     | 11 | 食卓 | 19 | 井戸   | 7  | 船橋   | 13 | 伊豆    | 22  | 武蔵    | 1  | 馬車   | 19 | 屋外  | 26 |
| 生家 | 37  | 20  | 壁面 | 34  | 石段 | 15 | 玻璃障子  | 10 | 長火 | 17 | 橋    | 6  | 路地   | 9  | 伊豆    | 22  | ヨーロッパ | 1  | 馬車   | 10 | 屋外  | 25 |

Architectural space in Hakai and Ie of SHIMAZAKI Toson  
The transfiguration of the boundary in the modernization society

KOKUBO Jun, SHIBUYA Yoshikatsu, KONDO Shoichi, WAKAYAMA Shigeru

主人公三吉とその兄弟、親戚にある達雄、実、森彦、正太の「家」が舞台となり、それらの自宅を中心に構成されており、「家」の内部空間が現れている。一方、二作品に共通している点として【回想】の意識時間が多いことがあり、一つの【回想】における意識時間はそれほど長くはないが、藤村の作品の特徴として、登場人物の心情描写とともにそれをさらに補うように自然風景や光や音の描写が多く見られる。結果として、その効果はストーリーが展開されている舞台空間の意味づけとなり、逆にその舞台空間がストーリーを展開している登場人物的心情を意味づける。また藤村は【回想】を多く挿入することで、舞台空間とその中にいる登場人物の描写に終わることなく、信州地方という社会空間が根底の舞台として存在することを常に意識させようとしているのではないかと考えられる。

【建築表現】『破戒』『家』に現れる建築空間の表現を抽出し、その主要な舞台空間を特徴づけるキーワードを抜き出し、その意味の構造を表した意識構造図を図-3、4に示す。二作品に共通する空間概念として、建物、部屋の単位で【表】〔裏〕という構造が出て来た。【表】意識のある空間は比較的広い空間、〔裏〕意識のある空間は個室や寝床、食堂などのプライベート的な空間のイメージを持つ。この二作品には、まだ西洋的な建築的要素はそれほど浸透しておらず、伝統的な日本家屋が主として著されており、土間や炉辺のような表にも裏にも成り得るというニュートラルな空間が多く見られる。また、舞台空間の対立構造として『破戒』では「束縛ー自由」、『家』では「栄ー衰」といった対立軸がキーワードの中から抽出された。『破戒』では知的権力としての学校とそれに対する庶民的空間、『家』では兄弟同士の「家」の対比が、空間表現の意味の対比に見ることが出来る。

【結論】島崎藤村は、東京の西洋化、近代化を横目に、故郷の信州地方を舞台にして日本の伝統的建築空間に親しみつつ、その心象の変化を作品の中に表現した。近代への変化は、この地方においては人々の思想の中にとどまり、建築そのものよりも、まずその空間の意識や使われ方に現れ、そこに【束縛ー自由】【栄ー衰】といったような対立構造を生み出している。文学作品の中で、新時代の意識は、物理的空间に先立って、古い形式や伝統を持つ地方の村社会と家社会という二つの社会的空間概念に大きな変化を見せはじめたのであった。

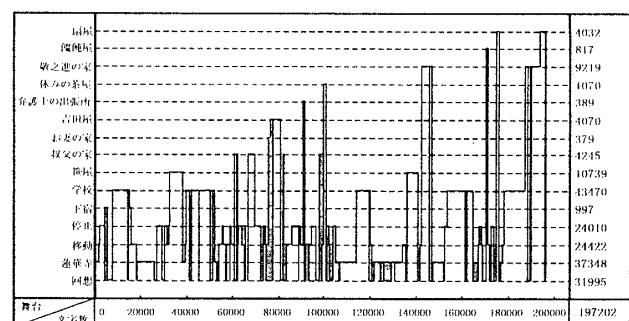


図-1 舞台推移図『破戒』

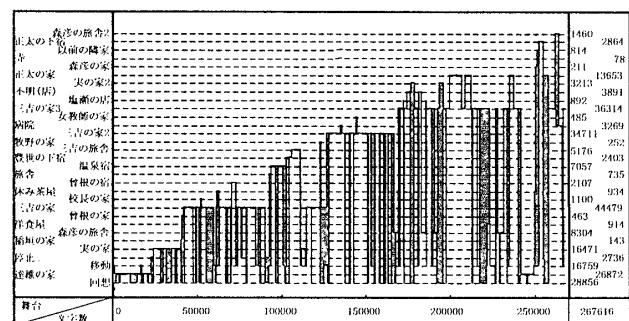


図-2 舞台推移図『家』

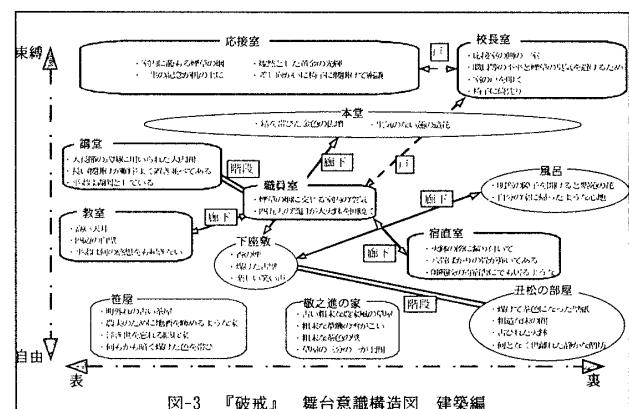
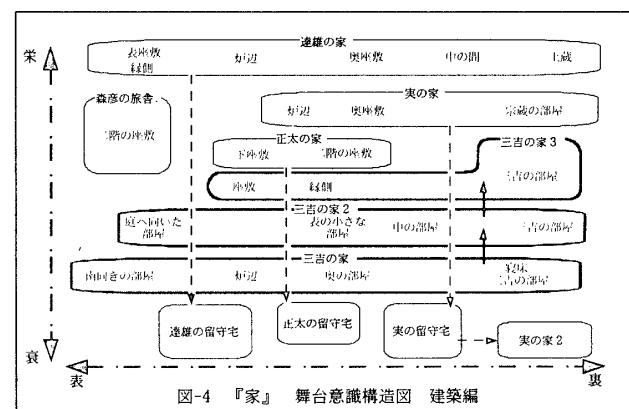


図-3 『破戒』 舞台意識構造図 建築編



Mr.s course,Nagoya Inst. of Technology  
Graduate Student,Nagoya Inst. of Technology,M.Eng  
Research Assoc.,Nagoya Inst. of Technology,M.Eng  
Prof.,Nagoya Inst. of Technology,Dr.Eng

\*1 名古屋工業大学社会開発工学科 大学院生博士前期課程  
\*2 名古屋工業大学社会開発工学科 大学院生・工修  
\*3 名古屋工業大学社会開発工学科 助手・工修  
\*4 名古屋工業大学社会開発工学科 教授・工博